

＜一般社団法人福島県法人会連合会会長賞＞

命を救う税金

二本松市立安達中学校 2年 大川 明里

私が小学生のとき、コロナウイルスが大流行しました。当時、コロナの対策のために、学校にも消毒のためのアルコールや、換気のための扇風機が設置されました。さらに、飛沫感染の防止のため、プラスチックの仕切りやフェイスシールドなども活用されました。

これらのようなたくさんの対策のおかげで、私の通っていた小学校では、感染者をあまり出すことなく、コロナ禍を乗り切ることができました。これらの対策がどのように行われたのかを調べてみると、多額の税金が使われていたことを知りました。私たちがアルコールなどの道具を使うことができたのは、学校が税金を使ってそれらを購入し、学校の中のさまざまな場所に設置してくれていたためです。だから、学校に来る人はみんな、自分のお金を使わずに道具を利用することができました。

税金を使って行われた対策は、多くの人の命を守りました。もしも税金が無かつたら、コロナがもっと蔓延して、学校でも感染者がたくさん出たかもしれません。そうなったら、私たちは学校で十分に勉強することができなかつたと思います。コロナ禍にあっても私たちが安心して勉強に取り組むことができたのは、税金のおかげだと言えます。

税金は、コロナパンデミックのような緊急時以外にも、みんなが安心して生活するために、普段から身の回りのさまざまなことに使われています。例えば、救急車をいつでも無料で利用でき

のもの、税金によってその費用が賄われているからです。もし海外のように救急車が有料だったら、生命が危険に晒されているのに、お金がなくて救急車を呼べない人もいるかもしれません。だから、救急車を無料で呼ぶことができる日本の制度は、とてもありがたいものです。ほかにも、水道が整備されていて清潔な水を使えることや、全国で予防接種を受けられることも、病気の防止に役立っています。税金は、いつもみんなの命を助けています。

税金があるために、手取りが減ったり、ものを買うのにお金が余分にかかったりして、生活が苦しくなっているように感じることもあります。しかし、こうしてひとりひとりが納めた税金が、みんなの安心・安全な生活を支えていることを認識すれば、税金の大切さがわかると思います。中学生である私たちは、今も消費税などを納めていますが、将来はもっと立派な納税者になることが求められます。そのために、今までの納税者に感謝の気持ちを持ち、税金についてもっと広く深く学んで、未来の納税者としての自覚をもって勉学に取り組んでいきます。